編集後記

本号の巻頭言は中村聖三教授にお願いいたしました。

「AIは橋梁業界を救う!?」と題して、現在建設業界において盛んに進められている生産性の向上を目的としたICT技術の中でも人工知能（AI）に焦点をあて、今後の橋梁業界においてAIをどのような分野に活用していくか、その適用へ向けての課題と可能性について様々な視点で貴重なご意見を頂いております。先生にはご多忙のところ玉稿をお寄せ頂き、誠に有り難うございました。誌面を借りまして厚く御礼申し上げます。

先生の巻頭言の文中でも記載がありますが、橋梁業界のICT技術（i-bridge）において、これまでのところは3次元モデリングとモニタリング技術を中心に技術が進められております。今回の技報においても上記に関連し、モニタリングシステムの「OSMOS」について紹介しております。本文中ではこのシステムを交差点付近の架設用ベントの傾斜計として実際に使用した効果について検証を行っており、今後は施工時の安全管理を主目的として様々な分野にも適用していければと考えております。

その他に、JR上で時間的にも作業スペース的にも制限がある中での橋梁の拡幅・架替え工事や橋梁の大ブロック架設工事、競技場屋根鉄骨や展示場の建築工事など多方面にわたった工事報告に加え、実環境で腐食劣化した高力ボルト接合部の腐食性状に関する研究などについて掲載しております。これらの報告が今後の橋梁や建築に関する技術の向上への一助となれば幸いです。

また、本号より宮地の開発商品として、FRP関連製品と床版撤去工法を巻末で紹介しております。宮地の開発商品について使用を検討される際にご一読頂ければと考えております。

最後になりましたが、執筆者を始め多くの関係者のご協力により本号を発刊することができたことに深く感謝いたします。

宮地技報編集委員会

委員長	上原　正		
副委員長	平島崇嗣	河西龍彦	
委員	安藤正志	梅沢真悟	嬉　克徳
	越中信雄	奥村恭司	戸井口由和
	永谷秀樹	野沢栄二	藤井利明
	松本博樹	村井向一	村上貴紀
	吉川　薫		
事務局	田村修一	横澤幸貴	

宮地技報　第32号

発行日　令和元年6月28日

発行所　宮地エンジニアリング株式会社

〒103-0006　東京都中央区日本橋富沢町9番19号

TEL　03(3639)2111(代)

印刷所　望月印刷株式会社